HCニューズレター
No.9
Human Care News Letter
2008年3月 日本ヒューマン・ケア心理学会

生涯発達とヒューマン・ケア

第9回大会報告

名古屋市立大学大学院人間文化研究科　後藤 宗理

残暑厳しい2007(平成19)年9月8日(土)9日(日)の2日間、名古屋市立大学人文社会学部棟に於いて、「生涯発達とヒューマン・ケア」をメインテーマに第9回大会を開催させていただきました。

大会参加者は91名(会員69名、非会員22名)、研修会参加者も25名(会員23名、非会員2名)でした。研究発表は、口頭発表が14題、ポスター発表が20題あり活発な議論がなされました。

特別講演は「生涯発達とターミナルケア」と題して柏木哲夫先生(金城学院大学学長)にお願いし、これまでの看取りの体験から高齢者の特徴やターミナルケアのポイントについてユーモアを交えてお話いただきました。

シンポジウムは「子どもの発達とヒューマン・ケア」をテーマに、「小児と家族のための療育環境デザイン」(鈴木賢一氏／名古屋市立大学大学院芸術工学研究科)「子どもが主役の医療を求めて―病院におけるチャイルド・ライフ―」(佐々木美和氏／名古屋大学医学部附属病院・チャイルド・ライフ・スペシャリスト(「小児看護学の視点から」)田崎あゆみ氏(あいち小児保健医療総合センター・小児看護専門看護師)に具体的なお話を伺いました。教育講演は数井みゆき氏(茨城大学教育学部)に「アタッチメントの発達」についてのお話をしていただきました。

研修会では「老化とその要因―疫学的研究からのアプローチ―」として、下方浩史氏(国立長寿医療センター研究所疫学研究部 部長)に進行中の研究をご紹介いただきました。

少人数のスタッフで運営いたしましたので、何かと不行き届きの点もあったかと思います。この場を借りてお詫び申し上げます。

最後になりましたが、学会本部を始め関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。



特別講演

「生涯発達とターミナルケア」

金城学院大学　柏木 哲夫先生

日時　9月6日　13時～14時10分

近年、がんに対する集学的治療が進歩し、5年生存率も上昇しているが、1981年以来日本の死因の第一位はがんであり、「がん＝死」というイメージは根強い。巷に氾濫するがんに関わる情報は、人々のこれに対する関心の強さを示しているであろう。本学会総会では、ホスピス緩和医療の第一人者である、柏木哲夫先生に「生涯発達とターミナルケア」という演題でご講演をいただいた。ご講演のなかで、高齢者の特徴（身体面、精神面、社会面、宗教面など）、高齢者へのケアやコミュニケーションの際の留意点（例えば「痛みを訴えない理由」など）、そして、患者家族へのケアの重要性など、生涯発達のなかでも特に高齢者に焦点を当てたターミナルケアについてお話しいただいた。たくさんの映像資料と、先生の人柄の伝わる、〝ユーモア〟溢れるわかりやすいご講演であった。



講演：柏木先生

医療現場では、ただ単に患者の時間的延命に重点を置くのではなく、患者のQOLを考えたケアのあり方が問われる時代になってきた。症状コントロールなど身体面のサポートはもちろんのこと、医療者側のコミュニケーションのあり方も含め、患者や家族への精神的サポートのためにどのようなヒューマン・ケアが求められるのか、先生のご講演のなかにたくさんの重要なヒントを見つけることができたのではないだろうか。

（文責　日赤看護大学　遠藤公久）

教育講演

「アタッチメントの発達」

茨城大学教育学部　数井 みゆき

日時　9月6日　15時30分～16時30分

ここ数年のうちに、数井先生はアタッチメントに関する複数の著作を出版されており、この教育講演においても、我が国で受け入れられているアタッチメントの概念はボルビーの真意とは異なるということが強調されていた。このようになった原因として、アタッチメントの訳語に「愛着」があてられたことが指摘された。この概念は子ども（弱者の側）から親（強者の側）に対する心の働きで、単なる母子関係を意味するものではなく、また、血のつながりとも無関係であることから、「付着」があらたな訳語として提案された。

この提案をもとにして、アタッチメントが、4つの段階に分かれて発達していくことが、実例をあげて説明された。その他、アフリカ・ウガンダのエファ族における、我が国では考えられない興味深い育児の例について、アタッチメントの観点からの指摘があった。

（文責　聖路加看護大学　廣瀬清人）

第9回シンポジウム

「子どもの発達とヒューマン・ケア」を終えて

名古屋市立大学看護学部　中嶋 律子

日時　9月6日　10時～12時

「生涯発達とヒューマン・ケア」という大会テーマのもと、シンポジウムでは、子ども、中でも療養生活を送る子どもに焦点をあて、「子どもの発達とヒューマン・ケア」をテーマに、小児看護専門看護師の田崎あゆみ氏、日本ではまだ数少ないチャイルド・ライフ・スペシャリストのお一人である佐々木美和氏、そして、病院建築の立場から小児医療機関の病棟デザインを手がけておられる鈴木賢一氏をシ

ンポジストにお迎えし、会場の皆様を交えた活発な議論が行われました。

このシンポジウムを通し、子ども自身が自らのもつ力を最大限に発揮し病気に立ち向かえるようケアすること、治療に伴う不安やストレスに対してケアするとともに、発達を促すようケアすることの必要性を確認し、そのためにはハードとソフト両面からのアプローチが必要であることや、入院から家庭までの子どもの生活を考え、学校をも含めた継続したケアが必要であること、そして、これらのケアに関わる様々なプロフェッショナル達の役割の調整と連携が不可欠であることなどが話し合われ、有意義な時間を共有することができました。

シンポジスト諸氏とご参加いただきました皆様に、この場をお借りし、改めて御礼申し上げます。

研修会

「老化とその要因 ―疫学的研究からのアプローチ―」

国立長寿医療センター研究所疫学研究部長　下方浩史

日時　9月7日　13時～15時

本研修会では老化に関する疫学的研究には、老化に関連する健康問題の検討と、正常な老化による変化を観察するという2つの大きな目的があること、そのためにさまざまなデータの蓄積が重要であることが示されました。実際の研究方法には縦断的方法と横断的方法がありますがとくに縦断的方法が重要であり、老化・老年病の分子疫学に対する関心の高まりにともなって縦断的解析が必要になってきました。

長寿医療センターでは長期縦断疫学研究として、地方自治体の協力を得て2年ごとに繰り返し調査・検査を実施しており、今後興味深い成果が陸続と発表されることが期待される内容でした。

（文責　名古屋市立大学人間文化研究科　後藤宗理）

第9回大会に参加して

淑徳大学大学院
総合福祉研究科心理学専攻　土田 直子

名古屋で開催された、日本ヒューマン・ケア心理学会の大会に参加しました。「生・老・病・死」について、考える機会を持ちたいと30年ぶりに学びの場所に戻ってきた者にとって、2日間は大変意義深く、また刺激的なものでした。大会のテーマは「生涯発達とヒューマン・ケア」であり、シンポジウムや講演・研修会の内容が、出生時から老化、ターミナルにまでおよび、人間の全体を捉える視点に立って考える機会を得ることができたのは、貴重な経験でした。長期縦断疫学研究・ターミナルケア・アタッチメント・子どもの療養生活など、第一線で活躍されている先生方のお話をうかがい、人間の一生の様々な場面での問題にいろいろな角度から触れることができたように思います。ポスター発表や口頭発表では、会場に集まった人の多さ、参加者の熱意に驚かされました。

そしてなにより感動したのは、ヒューマン・ケアに対して、熱い思いを抱き研究している人々がこんなにもたくさんいるのだという事を実感したことでした。立場や対象には違いがあっても、「人が人とかかわる」ということを問題にし、向き合っている先生方・諸先輩の存在は、研究をはじめたばかりの初学者にとって、大きな励みであるとともに、目標になりました。すばらしい大会を企画・運営してくださった先生方に、心より御礼申し上げます。



日本ヒューマン・ケア心理学会第10回大会のお知らせ
〈チーム治療とヒューマン・ケア〉

日程…2008年9月13日(土)・14日(日)
会場…京都大学医学部保健学科校舎(予定)
京都市左京区　京大病院西構内
第9回大会準備委員長…
菅 佐和子(京都大学医学研究科人間健康科学)

メインテーマ…「チーム治療とヒューマン・ケア」
特別講演　山中康裕「こころのケアの本質とは」
教育講演　十一元三「広汎性発達障害の理解と治療」
シンポジウム　チーム治療の発展と深化を目指して
―現場からの提言―
指定討論…山根 寛(予定)
研修会　「臨床現場に根ざした研究の方法論」
【予定】〈講師／小玉正博　司会／清水裕子〉

今後のスケジュール
1 大会案内の送付　4月中旬
2 演題申し込み(払い込み)　締め切り…5月末日
3 予約参加申し込み(払い込み)　締め切り…5月末日
4 抄録原稿提出　締め切り…6月末日

日本ヒューマン・ケア心理学会第10回大会を、2008年9月13日・14日に京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻(医学部保健学科)において開催させていただくことになりました。本学は、人間のこころとからだの健康を自然科学と人文・社会科学の垣根をとりはらって統合的に探求することを旗印とし、看護師、検査技師、理学療法士、作業療法士の養成を行っております。

本大会では、本学の特徴を活かし、「チーム治療とヒューマン・ケア」をテーマに選びました。ぜひ、多数の皆様のご参加をお待ちいたしております。

連絡先…〒606-8507　京大医学部保健学科菅研究室気付
第10回大会事務局　☎075-751-3961
ssuga@hs.med.kyoto-u.ac.jo
「日本ヒューマン・ケア心理学会」第10回大会会長　菅　佐和子

役員選挙の告知

選挙管理委員長　遠藤 公久

「日本ヒューマン・ケア心理学会役員選挙規程」に基づいて、左記の通り役員選挙を実施致します。

改選役員　理事・監事
選挙管理委員会の成立　2007年9月8日
選挙公示日　2008年1月20日
投票用紙郵送　2008年2月上旬
投票締切り　2008年2月29日(必着)
開票期日　2008年3月8日
開票場所　聖路加看護大学
選挙有資格者　2008年1月1日に会費を納入している会員

詳細については、投票用紙とともに、お知らせ致します。

「ヒューマン・ケア研究」投稿論文募集

「ヒューマン・ケア研究」は2008年度より年間2号の発行になります。原稿は常時受け付けておりますので、積極的な投稿を期待しています。詳細は学会事務局にお問い合わせください。

web担当からのお知らせ

会員に限り、「ヒューマン・ケア研究」の既刊号が全て閲覧、ダウンロードできます。2008年度のIDとパスワードは左記の通りですので、是非、ログインしてください。

ID:
PW:

編集後記

(学会広報担当　小玉正博)

●学会へのお問い合わせ、連絡、「ヒューマン・ケア研究」論文投稿は左記の事務局にお願いします。

〒113-0033
東京都文京区本郷2-38-14　TKビル5F　プライムアソシエイツ気付
日本ヒューマン・ケア心理学会 humancarepsy@primeassociates.jp
Tel／03-5805-0527　Fax／03-3812-5187